まちの居心地

若い世代どう感じている？ 統一選'23

4年に1度の統一地方選が始まった。人口が減って元気のない町、子育て支援の格差、新型コロナウイルス禍による生活不安…。私たちの身の回りには地域の課題がたくさんある。一方で選挙の投票率は低迷し、若い世代では特にその傾向が目立つ。若者は地方の現状をどう受け止めているのか。その視点から課題を見つめる。（1面関連）

華やかな都会のオフィス街で働く生活が待ち遠しい。広島修道大4年の篠原楓さん(22)＝廿日市市＝はこの春、東京の企業に就職する。広島に戻るライフプランは今のところ、ない。

昨年8月、就職の内定を父(55)にLINE(ライン)で伝えました。父は「良いキャリアを積んで」と励ましてくれた。直後にもう1つったな」って。気持ちは分かります。でも、働きたい企業を探したら東京にしかなかったんです。

地方から大都市へ人口流出が止まらない。総務省の2022年の人口移動報告で、広島県の転出者が転入者を上回る「転出超過」は過去最多の9207人。2年連続、都道府県で最多だった。うち約3割の行き先は東京。65%を20代が占める。県は「就職を機に出て行く若者が多い」とみる。

先端業種・働きやすさ 広島では…

魅力的な仕事ヒットせず

企業選びの軸は「今後消えない仕事」。IT分野の強さは必須です。関心のあったウェブ広告やサイト運用の会社を探しました。就職情報サイトで検索すると、東京はすごい量の企業がヒットするのに広島は本当に少なかった。おしゃれなオフィス、優秀なIT エンジニア、新人の育成カリキュラム…。東京の企業の情報が断然、魅力的で。

就職情報サイトを運営するディスコ（東京）の調査によると、24年に卒業予定の大学生が志望する業界1位が「インターネットサービス」、2位は「情報処理・ソフトウエア」。IT系の人気は高い。経済産業省の最新の特定サービス産業実態調査（18年）のデータでは、IT関連事業所の32%が東京都に集中。広島県は2%だった。

仕事と子育てを両立しやすい柔軟な働き方をしたい。そんな理由で広島を離れる若者もいる。広島大を卒業後、東京の精密機器メーカーで働く社会人3年目の男性(25)もその一人。

家庭と両立想像できない

週数回、自宅でテレワークをして子育てと仕事を両立している先輩がいる。社内では当たり前。自分も結婚するなら共働きがいいので柔軟に働ける会社を選びますね。でも、広島で働く父親や友だちの姿からは想像できません。

シンクタンクのNIRA総合研究開発機構（東京）と慶応大の22年12月の調査では、都道府県別のテレワーク利用率は東京が3割。広島は1割だった。

広島の転出超過のニュースはツイッターで見ました。大変だなと思う。将来、広島に戻るかどうかは白紙。やりがいのある仕事と、家庭の両立が可能な場所を選ぶかな。

地元企業を身近に感じてもらい、若者をつなぎ留めようとする取り組みもある。県立の叡啓大（中区）は、学生が地元企業の課題の解決策を探る演習に力を入れる。担当する川瀬真紀教授（教育学）は「社員と触れ合うことで分かる企業の面白さがある」と語る。

とはいえ、若者が望む将来性のある働き口とプライベートの充実。それをかなえてくれる企業が東京に集まっているように見えている現実がある。ニッセイ基礎研究所（東京）の天野馨南子・人口動態シニアリサーチャーは「とんでもない数の若者が広島から出ている。自治体は地元企業が選ばれるための方策を危機感を持って打つべきだ」と指摘する。（久保友美恵）

■止まらない大都市への転出

地元企業が抱える課題の解決策を、社員たちの前で発表する叡啓大の学生（2月28日）

随時掲載します

(C) 中国新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。